

‘たのしい防災’の重要性と Life Management Design (LMD)の提案

黒崎 ひろみ

徳島大学助教 環境防災研究センター (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2-1)
E-mail: rcmode@hyd.ce.tokushima-u.ac.jp

著者は、「防災とは、被災後も‘あなた’の現在の生活を継続するためにある」と考えている。これには個人だけでなく地域全体で防災対策に取り組む必要がある。地域防災を進めるには、地域内の各機関が密接に連携することが望ましい。徳島県を例とすると、大学と行政が連携して自主防災組織および学校の防災教育を支援し、マスコミの広報支援を受けることにより地域防災が活性化している。このうち、地域の核となる子ども達への防災教育は必要不可欠である。一方、子ども達が能動的に防災学習へ取り組むには、実施者側の工夫が必要であり、‘たのしい防災’を行うことが重要となる。

本研究ではまず、徳島県内の学校および短期就労の外国人および、沖縄米軍嘉手納基地の兵士・子ども達を対象として行った防災教育の手法・考え方を提示し、‘たのしい防災’の有効性を議論する。次に、防災教育の有無がもたらした地域住民の防災意識の違いについて、ヒアリング調査の結果を示す。

上記の結果をもとに、地域住民の Business Continuity Plan (BCP) すなわち Life Management Design (LMD) を提案する。

キーワード：防災教育，ヒアリング調査，防災意識，Life Management Design